



F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：【受援力】を高める備え



被災者相談窓口でのボランティア派遣要請の聞き取り訓練

地震や水害が全国各地で起きています。テレビなどで被災地の様子を見てみると、「災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）」が立ち上がり、「災害ボランティア」の皆さんが家屋の片付けをしたり、炊き出しで配膳をしたり、被災者の支援に励んでいる様子など、災害ボランティアや災害ボラセンに関する報道を見るようになります。それを見て「災害ボランティアとして現地に行くべきなのだろうか」と思うのと同時に、「自分たちが被災したら災害ボランティアの皆さんは助けに来てくれるのだろうか？」と半信半疑に思うこともあります。

そこで今回は、「特定非営利活動法人 藤沢災害救援ボラン

ティアネットワーク（以下、FSV ネット）」代表の大田哲夫さんに、災害ボランティアや災害ボラセンについてお話を伺い、自分たちが被災した際に援助を受ける力【受援力】について考えたいと思います。

災害ボランティア派遣までの流れ

Q. ボラセンはどのように立ち上がるのでしょうか？

太田さん「災害ボラセンは、被災者と災害ボランティアをつなぐ場所です。藤沢市では、『藤沢市』、『藤沢市社会福祉協議会』、『FSV ネット』の三者が協力して災害ボラセンを開設・運営します」（つづく）



【受援力】を高める備え

「『藤沢市』、『藤沢市社会福祉協議会』、『FSV ネット』三者それぞれの災害ボラセン立ち上げ時の役割は、藤沢市が『被災地の情報を集めて、災害ボラセンの立ち上げる/しないを判断』、藤沢市社会福祉協議会が『被災者のニーズ集め』、FSV ネットが『災害ボランティア集め』です。住居被害などの状況により、災害ボランティアによる支援が必要な場合は、災害ボラセンに派遣の要請をしてください」

Q. どのように災害ボランティアが派遣されるのでしょうか？
大田さん「FSV ネットでは、災害ボランティア派遣にまつわるトラブルを未然に防ぐため、派遣する前に各災害ボランティアの方々とお話しをして審査しています。災害ボランティアの方の特技や想いを伺って被災者からの派遣要請内容とマッチングを行い、ボランティア保険の加入状況などを確認しています。審査を通過した災害ボランティアには災害ボラセンで発行したボランティア証を持って活動していただきますので、災害ボランティアを受け入れる方は是非ボランティア証を確認してください」



総合防災訓練での活動紹介

上手な災害ボランティアの受け入れ方

Q.3 災害ボランティアをどのように受け入れると良いですか？
大田さん「災害ボランティアの皆さんと心を通わす対応をしていただきたいと思います。災害ボランティアの皆さんは『自分が人のために役に立ったこと、役に立ったと被災者の方に認められたこと』を感じたくて被災地にいらっやっています。認

められた・感謝されたという体験が災害ボランティアに来た方にとって『人としての財産』となります。東日本大震災で親に促されて災害ボランティアへ行った高校生が、被災したおばあちゃんから感謝の言葉をもらおうと、おばあちゃんと一緒に泣いていました。このような体験は、その高校生にとって一生の宝物になったに違いないでしょう。

受け入れ上手になるためには、事前にご自身で災害ボランティアとして現地に行って体験することが一番です。ボランティアと受入者がお互いに理解しあえる『受援力』を身につけてほしいですね」



ゲーム形式での避難所運営訓練

FSV ネットでは、日ごろより藤沢で災害が起きた場合を想定し、災害ボランティアの受け入れ訓練や被災者ニーズとのマッチングの訓練、活動のアピールをしています。藤沢市では、市全体の災害ボラセンだけでなく、各地区にサテライトセンターを立ち上げます。各地区でサテライトセンターが立ち上げやすくなるように、地域の住民や地区社協などに理解を呼び掛ける活動を行っています。また、FSV ネットでは、災害ボランティアと被災者からの派遣要請内容とをマッチングする「ボランティアコーディネーター」の養成講座を市内で年3～4回実施していますので、是非ご参加ください。

(取材・記事執筆：支援施設サポーター F-wave 班)

団体紹介

(N) 藤沢災害救援ボランティアネットワーク

【設立】 2006年10月

【代表理事】 大田哲夫

【住所】 〒251-0024

藤沢市鵜沼橋1丁目11番8号

【URL】 <https://fsv.fsvnet.com/>

災害時に救援活動をするボランティアに対して、他の地域ボランティアとネットワークを介して連携を図り、互いに助け合う市民社会の形成を目指す事業を行い、災害時において効果的な活動ができる体制づくりに寄与することを目的に活動しています。

具体的には、災害時のボランティアセンターでの運営や情報伝達の体制づくり、災害ボランティアコーディネーターの養成や災害時を想定したシミュレーション訓練、災害ボ

ランティアセンターやFSVの広報活動等を行っています。



団体が新しい事業を始めるとき、活動の対象となる人々や地域にアピールする方法としては、団体自前のウェブサイトや紙媒体のチラシや広報誌、SNSのほか、「プレスリリース」という方法があります。今回のNPOTIPSでは、プレスリリースの基本的な流れについてお伝えします。

プレスリリースの作り方

基本的にはタイトル、リード文、本文、画像、連絡先で構成します。タイトルは長くしすぎず、リリース内容の主旨が伝わるように。リード文は簡潔に全体像が分かるように。本文は過不足なく内容が伝わるように。画像は内容に沿ったものを。連絡先は報道機関等のお問い合わせに対応できる連絡先を、それぞれ掲載します。

記者クラブへの投げ込み

市役所などにある記者クラブでは、各種マスコミの出先機関として、プレスリリースを受け付けています。事前に電話をかけ、必要部数を確認します。電話を

かける先が不明であれば、代表連絡先から取り次いでもらうことをお勧めします。部数を確認したら訪問時間を告げ、直接持ち込みます。

配信サービスでのプレスリリース

PR TIMES や valuepress などの web 配信サービスを活用することで、他メディアで取り上げられたり、ニュース検索で表示されるようになります。団体アカウントのフォロワーが SNS 等でまだ少ないのであれば、インターネット上で最も効果的な広報手段はプレスリリースかもしれません。基本的には配信用アカウントを作り、必要な項目を入力するだけです。valuepress には無料プランがあり、PR TIMES では非営利団体向けプランがありますので、そういったサービスを活用することをお勧めします。

以上、文字にすると非常に簡単に見えますが、プレスリリースの流れとなります。その他、懇意にしているメディアがある場合は直接メールなどでご連絡する

のも、一つの手段です。

一口にプレスリリースといっても、取り上げられやすいかどうかは、公益性やニュース性をどう表現するかによっても変わります。リリースを出す目的は基本的には広報です。そのため、自分たちが表現したいことではなく、あくまでも「メディアの担当者が取り上げたいか」という視点での作成が必要になります。書き方にお悩みであれば、市民活動支援施設までご相談ください。(せ)



ボランティアを募集するコツ



日本列島改造論が日本中を回り始めた1972年の2年後から、内閣府が調査している「社会貢献に関する世論調査」に、「日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか」という設問があります。当初の10年ほどは、「思っている」と「あまり考えていない」が拮抗していました。中曽根総理大臣が「民間事業者の能力の活用による特定施設の整備の促進に関する臨時措置法」(略して民法と言われていた)が動きだした1980年代中頃ころから「思っている」の割合が増えてきて、バブルの崩壊と言われる1990年には60%を超え、その後30年間60%前後を推移しています。コロナ禍を超えた2023年11月の調査でも61.4%を維持しています。

では、社会貢献活動の身近な手法である、「ボランティア活動」の活動率はどうでしょうか。同じく内閣府の「市民の社会貢献に関する実態調査」によれば、コロナ前の2015年1年間でボランティア活動経験有は、17.4%、コロナ禍後の2021年も17.4%と変化がありません。この間一時的に割合が沈んだものの、回復しています。参加している人の理由は、「社会の役に立ちたいと思ったから」(59.1%)、「自己啓発や自らの成長につながるため」(34.3%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(25.4%)の順となっていて、納得できる結果です。しかしながら、いかにも少ないという感覚は否めません。

本調査で大変興味深いのは、「ボランティア活動への参

加の妨げとなる要因(複数回答)」を聞いていることで

- 1.参加する時間がない(45.3%)
- 2.ボランティア活動に関する十分な情報がない(40.8%)
- 3.参加する際の経費(交通費等)の負担(23.1%)
- 4.参加するための休暇が取りにくい(22.1%)
- 5.参加するための手続きがわかりにくい(21.2%)
- 6.一緒に参加する人がいない(14.5%)
- 7.ボランティアを受け入れる団体等に不信感がある(9.7%)
- 8.参加しても実際に役に立っていないと思えない(7.2%)
- 9.参加する際の保険が不十分(5.3%)

いかがでしょうか。受け入れる団体側で改善できることたくさんありそうです。

こまめに団体の活動情報を発信することや、ボランティアさんの受け入れ態勢を整えること、いつ・どこで・何をするのかなどはっきりとした募集を行うこと、何よりボランティアさんが参加したいと思ったときの連絡先と担当者をはっきり明示することなど、全部一度にそろえることはできないと思いますが、一つずつ揃えていきませんか。「推進センター」と「プラザむつあい」ではそのお手伝いをしています。お気軽にお声掛けください。(て)



講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■湘南台駅地下パネル展示 ※トークイベント 11月4日(月)

10月27日(日)~11月4日(月)

■市民活動・地域活動のための写真撮影入門講座

11月10日(日) 13:30~15:30

■夜活フジサワ「海ゼミ!!」学長が語る「海の学び場」

11月20日(水) 19:00~20:00

■市民活動プラザむつあい 休館日変更

10月15日・11月5日

NEW!

支援施設からのお知らせ

■湘南台駅地下パネル展示&トークイベント

藤沢市内で活動している市民活動団体の活動紹介を行います。
幅広い世代の人たちの市民活動を、パフォーマンスを交えて紹介します。

- ・パネル展示参加団体の団体紹介、活動紹介
- ・団体への質疑
- ・一般参加者を含め団体交流の時間を設けるなど

展示期間：10月27日(日) ~ 11月4日(月・祝)

イベント日時：11月4日(月・祝) 13:00 ~ 15:00

場所：湘南台駅地下アートスクエア

料金：無料

イベント定員：80名 ※申し込み不要

問合せ：市民活動プラザむつあい



■夜活フジサワ「海ゼミ!!」学長が語る「海の学び場」

「海をもっと楽しもう!」をテーマに、海の生き物や環境、歴史、海の楽しみ方を学ぶ「湘南 VISION 大学」の話聞いてみませんか?

学長の片山氏をゲストにお招きし、参加者とともに語り合う交流会です。

日時：2024年11月20日(水) 19:00 ~ 20:00

会場：市民活動推進センターフロア

講師：片山清宏氏 (NPO 法人湘南ビジョン研究所 理事長)

内容：ゲストトーク、交流会ほか 参加費：無料 定員：20名

対象：地域活動や海での活動に興味がある市民

問合せ：藤沢市市民活動推進センター

■市民活動プラザむつあい 休館日変更

「市民活動プラザむつあい」は、スポーツの日、文化の日の振替休日のため2024年10月14日(月・祝)、11月4日(月・祝)を開館日といたします。それぞれ翌日の10月15日(火)、11月5日(火)が休館日となります。ご注意ください。

開館：10月15日,11月5日(いずれも月曜日)

休館：10月14日,11月4日(いずれも火曜日)

■市民活動推進センター配架サポーター募集(辻堂)

藤沢市市民活動推進センターでは、市内の各市民センターや公民館に設置してある「市民活動コーナー」にて、配架チラシの交換のお手伝いをして下さる方を募集しています。今回募集対象としているのは、辻堂市民センター担当です。詳しくは、推進センターまでお問合せ下さい。

対象：辻堂市民センターまで徒歩または自転車圏内の方

謝礼：2ヶ月1,000円 ※推進センターまでの交通費別途支給

内容：2ヶ月に1回の配架チラシ交換作業

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00 ~ 22:00 火曜休館

※日・祝は9:00 ~ 20:00

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 アーバンセンター藤沢 2F

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00 ~ 17:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構 (藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です!